

ジェーン・グドールへの追悼

ジェーン・グドール、野生のチンパンジーと共に暮らし、すべての生き物に対する慈悲のグローバルな声となった先駆的な霊長類学者が、91歳で亡くなった。彼女は2025年10月1日、カリフォルニアでの講演ツアー中に自然死でこの世を去った。

研究者が通常、動物を自然の生息地から取り出し、無菌の研究室で研究していた時代に、グドールは別の道を選んだ。1960年、彼女はタンザニアのゴンベ・ストリームの森に入り、チンパンジーの世界に彼らの条件で足を踏み入れた。彼女はシンプルに、地球に近く生き、徐々に野生の存在の信頼を勝ち取り、彼女はそれらを標本としてではなく、隣人、親族、対等な存在として知ようになった。

彼女の発見—チンパンジーが道具を作り使い、死者を悼み、優しさと残酷さを見せ、豊かな社会的ネットワークの中で生きている—は科学を変えた。しかしそれ以上に、彼女の方法は語られざる精神的な真実を帯びていた。それは、動物が研究のための劣った対象ではなく、内なる人生、尊厳、そして存在の神聖な織物に共有する仲間であるというものだ。

グドールはしばしば、理解には知性と同じくらい共感が必要だと述べていた。この信念—慈悲が知識の一形態であるという—が、彼女の後半生を保護活動家や擁護者として動かした。彼女は**ジェーン・グドール研究所**と若者運動**ルーツ&シューツ**を設立し、新しい世代に動物、人間、地球の保護のために行動するよう促した。

彼女の遺産は、多くの管轄区域で大型類人猿のための新たな保護と権利を確保するのに役立った。しかし、おそらく彼女の最大の贈り物は、人類に生きている世界との親近感を再び目覚めさせたことだろう。彼女は、自然と調和して生きることがロマンチックな夢ではなく、道徳的責任であることを示した—それは、動物を人生の旅における神聖な伴侶と見なす精神的な伝統や道徳哲学に響く責任だ。

彼女の受賞歴は数多く、**国連平和大使**に任命され、数え切れないほどの国際的な賞を受賞し、彼女の著書や講演を通じて何百万人もの人々にインスピレーションを与えた。しかし、彼女の最大の名誉は、彼女のおかげで、動物の目に見るものが「他者」ではなく、私たちが共有する神聖な火花の反映であると見るようになった無数の人々かもしれない。

彼女はまだ息づく森、まだ保護されているチンパンジー、そして彼女の勇気、謙虚さ、慈悲のビジョンによって永遠に変わった人間のコミュニティを残した。彼女の人生についてもっと知り、彼女の遺産を支援するには、<https://janegoodall.org/> を訪れてください。